

(編集後記)

今号は、2つの記事からなっています。地震工学会の活動とあり方について若手研究者としての立場からのご意見を、東京大学・目黒公郎氏に、日本免震構造協会の活動概要を同協会・可児長英氏にお願いしました。◆編集委員会として目黒氏のご意見に注目し、是非、寄稿いただきたいとずっとお願いしてきましたが、ようやく会誌記事として実現しました。また、日本免震構造協会は今年創立10周年を迎えます。同協会・専務理事の可児氏には、10周年記念事業を中心に、これまでの活動および現在の委員会活動について執筆をお願いしました。◆私を編集委員長とする会誌ニューズレターもこの号が最後となります。これまで、ご多忙の中を、記事の執筆にご協力いただきました皆様に、また編集にご協力いただきました多くの方々に厚く御礼申し上げます。私の力不足から、会誌の発行が遅れたり、皆様のご期待に添えるような編集が行えなかったりしたことを深くお詫び申し上げます。次号からは、新たな編集体制となります。今後ともこの会誌をご支援下さいますようお願い申し上げます。会員の皆様から頂戴いたしましたご支援に感謝いたします。ありがとうございました。

(西谷 章)